

作成: 芝崎

84. 読書篇: 高齢の方からパワーをもらう

- (1) 久しぶりの新幹線、私の斜め前の席に座ったおばあさん、おもむろに本を取り出すと、分厚い本(456P)を読み始める。たまたま私が読もう思っていた本:「張良」(宮城谷昌光/作)というタイトルですぐわかった。彼女の「一心不乱」の姿を見て、早く読もうと「一念発起」。
- (2)「張良」は紀元前の漢帝国/劉邦(初代皇帝)に仕えた軍師の話。彼はもともと韓の国の宰相の息子で、韓は秦に滅ばされて、弟を殺害され、秦/始皇帝を憎み、殺害を計画実行:結果は見事に失敗;岡の上から 30kgの鉄鎚(これ 1 個)を投げ、遊説中で移動していた始皇帝の乗った御車にぶつけ、殺害しようとした。1 個では確率的にもとても悪い気がする。
- (3)「張良」は劉邦と知り合い、軍師としての才能はすごい。策略としては「百発百中」、的を得て信頼を掴む。ついに、漢帝国を創設貢献。彼はその為には多くの正確な情報を得て、作戦を練る。始皇帝暗殺と戦略の策定とのGAPはとても大きく、思慮深い「張良」が考えた事とは思えないぐらい。私情が関わる人は変わるの🌈。でも、「邯鄲之夢」にせず、最終的には簡単ではなかったであろうが、ついに秦帝国を滅ぼし、張良は復讐を果たす。まさに「氣願成就」

邯: 簡単には達成できるとは思えぬが、劉邦は統率力と個性のある人材を生かす
 鄲: 単純な計画で暗殺失敗、今度は策略を駆使して、勝利に導く:張良の才能を引き出す
 之: 之を推進した劉邦は 3 人の天才:張良・蕭何・韓信を上手く使えたのは自分だと自負
 夢: 夢をかなえた張良は軍師としての才能を最大限生かす

➡ 古代中国(紀元前)の話は主役を引き立てる多くの人物の繋がりや対抗勢力との構図、古代中国のシステム、地名等ある程度理解する必要あり。2H の新幹線で 1/3 程度読んでいたが、私は 1 週間もかかる。このおばあさんのパワー/集中力には驚くばかり。まさに「氣炎万丈」🌈



以上

備考: 3 人の天才:張良/軍師・蕭何/人材登用能力・韓信/軍の統率能力: 国士無双の人
 邯鄲の夢: 人生の栄華、浮沈のはかなさを示す